

特別号Ⅱ

(第7号)

熊本の新しい**力**39歳

西野だいすけ 通信



皆さま、こんにちは。西野だいすけです。「西野だいすけ通信」をご覧いただき、ありがとうございます。今回は、特別号第2弾として、私の決意やこれまでの活動などについてまとめました。

※創刊号～第6号と重複がありますが、あらかじめご了承ください。

- ◆ 昭和53年生まれ 39歳
- ◆ 熊本生まれ、熊本育ち
飽田町 (現・熊本市南区) 出身
藤園中学校 / 熊本高校 卒業
- ◆ 東京大学 法学部 卒業
- ◆ 元 財務省 主計局主査
- ◆ 国会議員関係政治団体代表
(衆議院議員 (候補者等))

1. プロフィール

自己紹介

身長：**176センチ** 体重：**80キロ**
 生年月日：**昭和53年 (1978年) 9月22日**
 血液型：**B型**
 学生時代の部活：**水球部** (高校、大学)
 好きな食べ物：
馬肉、トマト、なす、デコポン、
白身の魚 (スズキ、くっぞこ等)
 好きなもの
大河ドラマ、オリンピック、
紅白歌合戦、ドラマ金八先生
 尊敬する人：
田中角栄 元内閣総理大臣、
ヒラリー・クリントン 前国務長官 等
 座右の銘：
「一生燃焼、一生感動、一生不悟」

主な経歴

昭和53年 熊本県飽託郡飽田町砂原
(現・熊本市南区砂原町) 生まれ

昭和60年 飽田東保育園卒園

昭和60年 同年 飽田町立飽田東小学校入学

平成3年 熊本市立城東小学校卒業

平成6年 熊本市立藤園中学校卒業

平成9年 熊本県立熊本高校卒業

平成10年 東京大学文科一類 (法学部) 入学

平成15年 東京大学法学部卒業

平成15年 同年 財務省入省 (理財局財政投融资総括課)

平成22年 米国コロンビア大学公共政策大学院修了

平成23年 大臣官房秘書課課長補佐 (採用担当)

平成24年 復興庁参事官補佐

平成26年 主計局主査 (国土交通第5係担当)

平成28年 財務省退官

この一年間、壺溪塾にお世話になりました。

討議資料

西野だいすけ通信 特別号Ⅱ (第7号) 平成29年9月発行

〈西野だいすけ事務所連絡先〉
 住所：熊本市南区田迎5-1-30
 TEL：096-379-6079
 Email：info@daisukenishino.com
 URL：http://daisukenishino.com

後援会ご加入のお願い!

西野だいすけの政治理念にご賛同いただき、後援会へ加入していただける方を募集しています。西野だいすけの政治活動は、皆さまに支えていただいております。そのことを肝に銘じ、政治活動に邁進してまいります。後援会にご関心のある方は、ご連絡ください。

2. 基本理念 (概要)

私、西野だいすけは、以下の3つを柱に据え、政治活動を行ってまいります。

※基本理念や政策の詳細は、西野だいすけHPや西野だいすけ通信第2～3号をご覧ください。

「基本的なインフラ (基盤)」を創る

国民の皆さま一人一人が、それぞれの夢や目標、充実した人生に向かって、全力で人生を駆け抜けることができるよう、安心・安全に生活するための基盤 (基本的なインフラ) を維持・強化することが、政治が最低限果たすべき役割だと信じます。

「チャレンジする人で溢れる社会」を創る

チャレンジは、社会を進歩させ、社会に富を与えてくれるだけでなく、個々人の人生を実り多きものにしてくれると信じます。法律や予算、教育のあり方を見直し、挑戦したい人たちが挑戦しやすい環境を整備し、より多くの人たちが挑戦したいと思える社会の実現を目指します。

「輝く熊本」を創る

熊本を盛り上げるためには、何よりも、人口を増やすこと、せめて、人口減少に歯止めをかけることが重要です。そのために、①雇用の創出と②住みやすいまちづくりを車の両輪として取り組みます。



3. 活動報告 (概要)

※活動報告の詳細は、西野だいすけHPやフェイスブック、西野だいすけ通信第4号及び第6号をご覧ください。

3-1 出馬表明

昨年10月30日、県庁記者クラブにおいて、多くのマスコミの方々にお集まりいただき、次期衆議院総選挙に、熊本2区 (熊本市西区、南区、荒尾市、玉名市、玉名郡) から立候補することを正式に表明いたしました。その前後で、新聞やニュースなどで、取り上げて頂きました。



(上) 熊本県庁記者クラブでの記者会見の様子
(右) 熊本日日新聞 (10月23日朝刊3面) 一部抜粋



3-2 辻立ち

昨秋より、ほぼ毎日、選挙区内の各地で、街頭に立ち、マイクを握らせていただいております。

お陰さまで、喉だけは強くなりました。始めた当初は、10分で喉がやられていましたが、最近では、1時間でも2時間でも平気です。

さらに、最近は、共に恥をかいてくれる仲間も増え、また、場所によって、ご声援が増えてきたと感じます。「暑い中、大変ね」と言って、冷たい缶コーヒーを差し入れてくださる方もいます。涙が出る思いです。

引き続き、頑張ります。ご声援、よろしくお願ひします。



3-3 西野だいすけを囲む会

昨秋の出馬表明以来、選挙区内の各地で「西野だいすけを囲む会」を開催しております。地元、飽田を皮切りに、合計15か所で開催し、のべ2,000名を超える方々にお集まりいただいております（8月末現在）。

(※) 上天草市は、選挙区外ですが、母の故郷であるため、親戚・友人が中心となって開催してくれました。

(参考) 西野だいすけを囲む会の開催状況

開催日	地区/校区	参加者数
10月30日	飽田地区	300~400名
11月25日	城西校区	50~60名
11月26日	和水町（菊水地区）	120~130名
4月26日	小島校区	約80名
5月9日	玉名市	約210名
5月17日	川尻校区（元三町）	約90名
5月22日	天水町	約90名
5月31日	池上校区	約80名
6月24日	中島校区（中島町）	約70名
6月26日	中島校区（沖新町）	約60名
7月2日	天明地区	約180名
7月19日	長洲町	約260名
7月22日	御幸校区	約70名
8月20日	上天草市（※）	約180名
8月30日	横島町	約110名
合計	15か所	2,000~2,100名



飽田地区（左右）



最後に一礼



沖新町（左）



天水町（上）



池上校区（上）



横島町（上）



小島校区（上）

開催にあたっては、多くの方にご協力を頂いておりますが、特に、若い世代を巻き込んでいくことを心がけています。参加していただくだけでなく、司会や最後の「やるぞコール」も、若い世代にお願いするケースがほとんどです。また、開催前には、若い仲間とともに、多くの方へ囲む会へのお誘いをすることもあります。



玉名市（上）



御幸校区（上）



中島町（上）



上天草市（上）

私のスピーチでは、最後にマイクを使わずに、生の声で、私の覚悟を訴えさせていただいております。

今後も、選挙区内の各地で開催していきますので、ご都合がつけば、是非、お越しください！



元三町（上）



天明地区（上下）



長洲町（上下）



和水町（左）



城西校区（右）



4. ご挨拶

昨年4月に財務省を退職し、政治の道を志すため、生まれ育った故郷、熊本に戻って参りました。それから1年5か月、お陰さまで、多くの方々からご支援を頂き、毎日、元気に政治活動に励んでいるところでございます。これからも、日本のため、そして故郷熊本のために、人生をささげる覚悟で、さらに精進して参りますので、皆さまにおかれましては、末永く可愛がっていただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

政治は、幼いころからの憧れ

私は、5年前に他界した父の影響で、小さいころから歴史や政治が好きで、自然と政治的なリーダーに憧れをもつようになりました。父からは、「しっかり精進して、この国を担いやる、大きな人間になってほしい」と言われて育ってきましたので、政治の道を志すという私の想いは、ある意味、他界した父との約束とでも言うべきものかもしれません。

政治というのは、国民の皆さまに対して、そして、将来に対して責任のある大変な仕事です。生き馬の目を抜く厳しい世界を、早くも垣間見させていただいているところでもあります。それでも、将来のビジョンを示して、皆さまの先頭に立って、皆さまとともに、新しい社会を創っていくという政治家の仕事は、誰かが馬鹿になってもやらなんいかん、社会にとって必要不可欠な仕事だと信じておりますし、私個人にとりましても、「人生を懸けたい」と強く思える仕事でもあります。

政治への思いは、憧れから覚悟へ

もう一つは、この国に、熊本にしっかり貢献していきたい、という思いがあります。私は、ありがたいことに、今のこの時代に、日本に、熊本に生まれ育ちました。戦争や犯罪に巻き込まれることもなく、病気になっても、日本が世界に誇る医療制度が守ってくれました。そして、公立の高校・大学で学び、財務省に入ってから、予算査定の現場、政策立案の過程を体験し、国費で米国に留学までさせていただきました。思えば、私は、日本に、そして熊本の皆さまに育てていただいたと思っています。

そんな中、今、この国は、多くの困難に直面しています。国内では、少子高齢化が急速に進展し、財政状況も極めて深刻です。外に目を向ければ、中国やロシアといった日本とは普遍的な価値観を共有できない国々が台頭する一方で、欧米諸国では、自国優先主義の流れが強まっています。日本を巻き込んで、国際情勢は大きく変化しています。また、私たちの故郷、熊本も、昨年4月の一連の大地震によって、人口減少に拍車がかかり、復旧復興以外にも、多くの課題を抱えています。

日本が危機に瀕した時代には、西郷隆盛や吉田茂など、多くの先人たちが、困難に立ち向かったからこそ、今の日本があると思います。そうであれば、今、この時代には、社会に育てていただいた人間が、覚悟を決めて、様々な課題に取り組んでいかなければいけない、という強い思いがあります。

もちろん、不安もあります。私のような人間に、本当に政治を担う資格があるのか、と考えると眠れない日もあります。財務省に辞表を提出するとき、足が震えました。それでも、人生、一度きり。自分を信じて、応援してくださる方々に感謝して、自分の信じる道を、突き進むしかない、と思っています。

政治の世界に、全人格を懸けて挑戦

私は、今まで、多くの人から勇気とエネルギーをもらってきました。ゴルフの松山英樹選手にしても、歌手の石川さゆりさん(同じ飽田町出身)にしても、苦しみもがきながら挑戦し続けている。私も、挑戦し続ける人間でありたいし、挑戦するからには、責任を持ってどんな努力も苦勞も惜しまない人間でありたいと思っています。

今まで培ってきた知識や経験、人脈だけではなく、私が持てる全てを、エネルギーも含めて全人格を懸けて、政治の世界に挑戦いたしますことを、皆さまにお約束して、ご挨拶とさせていただきます。皆さまからの力強いご支援、よろしくお願い申し上げます。

西野 太亮